

加齢黄斑変性

吉村 長久(執筆) 辻川 明孝, 大谷 篤史, 田村 寛(執筆協力)

欧米には加齢黄斑変性 (AMD) についての成書が何冊もあるが、これまでわが国にはなかった。その理由は、長い間わが国では AMD の頻度が低く、眼科医の関心が低かったことと関連が深いと思う。しかし、近年わが国でも滲出型 AMD が増加し、2002 年には身体障害者手帳取得原因の 4 位を占めた。また滲出型 AMD と診断されてきた疾患の中にはポリープ状脈絡膜血管症が多く含まれており、日本人の AMD は病態も治療効果も欧米のものとは異なることが明らかになった。さらにインドシアニンググリーン蛍光造影や光干渉断層計 (OCT) による新知見が報告されるようになり、光線力学療法、抗血管新生薬など新しい治療法も導入され、AMD の臨床はターニングポイントを迎えた。そこで AMD、とくに日本人の AMD についての成書の必要性が痛感されるようになった。

このほどタイムリーに吉村長久教授と京都大学黄斑グループによる『加齢黄斑変性』が医学書院から出版された。本書の特筆すべき点は、第一に現在の AMD の最新知見のエッセンスが凝集されていることである。その中には京都大学黄斑グループの優れた研究結果もちりばめられている。たくさんの論文の結果は表にまとめられ、要点は図示され、大切なことだけが簡潔に記述され、読みやすいように工夫されている。また最新知見の意味や問題点が吉村教授の鋭い洞察力に

基づいて解説されている。さらに内容を理解するために必要な事項も多くが図解しており、非常に親切な本である。本書を 1 冊読めば AMD を理解するために必要な基礎的知識、検査、診断、鑑別疾患、日本人に多いポリープ状脈絡膜血管症をめぐる諸問題や日本人の AMD の特徴、および治療の最前線について網羅的に理解できる。

第二はカラー写真、蛍光眼底造影写真、OCT 写真のいずれもが非常に鮮明であり、それぞれの写真を眺め、解説を読むだけで AMD とポリープ状脈絡膜血管症、網膜血管腫状増殖のみならず、鑑別疾患についてもよく理解できる。図譜としても超一級品である。さらに治療の項では治療後の経過も写真で示してあるし、症例検討の項には治療法の選択とコメントも付記されており、日常臨床に有用である。

AMD の研究者のみならず、AMD に遭遇するすべての眼科臨床医に読んでいただきたい、明日から役に立つ名著である。

駿河台日本大学病院教授・眼科学
湯澤美都子

●A4 頁 272 2008 年

定価 15,750 円 (本体 15,000 円+税 5%)

[ISBN978-4-260-00678-1] 医学書院刊